



NPO法人ジャパンデンタルミッション

場所 フィリピン共和国・カオハガン島

期間 2014年2月7日～2月11日



参加メンバー

上段左から大西富子（H）望月知未（T）今本裕紀（D）倉橋朋子（H）橋口敦（T）中辻孝一（T）川本麻央（D）

中段のVサイン 山崎亜希子（H）

下段左から中窪円香（V）大野綾子（H）澤田宗久（D）佐藤由佳（H）宮辻幸枝（H）上崎秀美（D）

活動内容

2月7日（金曜日）

午前7時30分関西空港に集合、関空からの参加者9名

手荷物検査での機材が重量オーバーの為、手続に時間かかり、慌ただしく出発しました。無事セブ着、Dr 沢田・Dr 上崎・成田組3名と合流し車と船を乗り継いでカオハガン島に午前10時頃到着。食事後、スタッフの香織さんから、島の設備の説明と注意点、新しい日本人スタッフの紹介があり、続いてJDM参加者の自己紹介、上崎リーダーから明日からの活動の説明がありました。



2月8日（土曜日）

今回も午前7時30分より朝食、スタッフの気遣いのお陰でスムーズに食事終えた後、JDMメンバーと島民とで診療所の設営に取りかかった。



気持ちが、活動モードになってきた。

今回は、多くの義歯予約があるので、早速義歯の印象に取りかかった。午後からは咬合採得の為、技工作業はいつも通り外で行った。

検診も各自のパートをこなし、順調に健診を行った。

Dr 沢田は午前3時頃にカオハガン島出発レイテ島に台風被害の視察ドネーションに行かれた。





2月9日(日曜日)





午前 9 時診療開始、診療室はフル回転で各自の仕事を考えながら順調に進んでいった。義歯の作成も若手技工士(望月さん)の参加で、3 人の役割分担を決めスムーズに進んでいった。今回は日程が短かった為、実質 2 日間の技工作業だったので大変でした。

午後 2 時過ぎに Dr 沢田レイテ島視察から帰ってくる。早速診療に合流する。午後 5 時 3 0 分診療終了。夜のミーティングで今日の反省点等話し合った。Dr 沢田からは、レイテ島視察の報告があった。JDM に対してレイテ政府からの要請があったことと、今後どのように協力していくかが話し合われた。

2 月 11 日(月曜日)



午前 9 時診療開始、今回は月曜日しか学校健診できないので、Dr 上崎 Dr 今本 DH 大西 DH 倉橋が診療室に残り、残りのメンバーで学校に行き、検診ブラッシング指導、チェックアップを行った。診療室では義歯のセットと治療を午前で終え、午後からは後かたづけ、在庫整理、不足分のチェック荷物のパッキング、今回はフリータイムがなかったのが残念である。午後 4 時から恒例の運動会、宿泊客の方も参加されて楽しい交流になりました。



最後の夕食は野外でとりながら、今回の活動の感想を一人ずつ述べた後、Dr 沢田から総括がありました。

2月12日(火曜日)

カオハガン島 8 時に出発し、セブ空港での朝食後成田組と別れ、セブ島 1 時間遅れて出発、関西空港で到着後記念写真を撮り解散。お疲れ様でした。

総括

今回は、歯科医師 4 名、歯科衛生士 6 名、歯科技工士 3 名ボランティア 1 名でのミッションでした。いつもど通りの技工中心の 2 月ミッションに加えて代表がレイテ視察へでかけ、曜日の並びもイレギュラーで、私自身も戸惑ってしまいました。参加者の皆さんには無理、不便をおかけしたのではと思っています。そんな中でも協力して、診療し、多数の義歯を作成し、媒体活動をし、最終日には運動会もフルパワーでこなす頼もしいメンバーに勇気づけられた日々でした。

例のごとく、リーダー私を支えていただいた皆様に感謝しつつ

See you next time! 上崎

データ

治療結果

	2/8	2/9	2/10		合計
				スクール	
E X T	81 本	118 本	39 本	29 本	267 本
C R	19 本	88 本	22 本	14 本	143 本
セ充	14 本	13 本	4 本	40 本	71 本
S C	9 人	21 人	6 人	1 人	37 人
T B I	7 人	14 人		10 人	31 人
チェックアップのみ	4 人	1 人		5 人	10 人
Dset	3 人	6 人	3 人		12 人
Dバイト	12 人	1 人			13 人
Dリペア	4 人	1 人			5 人
Dリベース	6 人	0 人	1 人		7 人
人数	67 人	92 人	26 人	40 人	225 人

島別受信者	
カオハガン	51 人
カオハガン スクール	40 人
パンダノン	86 人
パンガアン	11 人
カブルアン	18 人
クアミング	9 人
合計	215 人

フィリピン・レイテ島・タクロバン市の台風被害視察と今後の活動

2013年11月8日（金）にフィリピンを襲った台風30号の被害状況について

日本では、その報道がめっきりされなくなっていますが、昨年11月にフィリピン・カオハガン島での歯科医療奉仕活動に行った際、救援物資として歯ブラシ500本、鎮痛、消炎剤6000錠、医療用グローブ、マスク、古着、毛布、食料、蚊取り線香等を寄付致しました。

レイテ島で奉仕活動を行っている元 JICA 職員の佐藤千咲さんに現地の被害状況をお聞きして、JDMとしてこれから何か出来ないものかと考え、2月のカオハガン島活動中に佐藤さんと一緒にレイテ島の最も被害が大きかったタクロバン市に行き参りました。



2月8～9日の一泊二日でしたが、早朝よりタクロバン市内・マグリアナス地区の視察から始まり、⇒アニボン地区⇒サンノセ地区⇒パライソ⇒パロ市⇒タナワン市と廻り、各地区の責任者と会見し、公民館活動などの現状や医療体制などを把握しました。夜も子ども達の映画会などの集会場所で歯ブラシや飲み物を配布致しました。

佐藤さんは現地と国連を含む国際機関の支援をより円滑に進めるようにコーディネイトをする仕事をされています。3ヶ月過ぎて今は現地で市民の自立支援活動をされています。

台風30号（フィリピン名・ヨランダ台風）の勢力はすさまじいものでした。上陸時の中心気圧は895hPa、最大風速84.7m/s、最大瞬間風速102.7m/sでした。中でもレイテ島、サマール島は甚大な被害でした。海岸部の被害の多くが「高潮」によるもので、最大5～7mの高潮が住宅、建物を一瞬にして襲いました。台風が頻繁に通過する地域で台風慣れしていて、高潮に関して警戒が不十分であった事も被害を大きくし



た原因ではないかと思われます。非難場所とされていた学校、公共施設も高潮に襲われ、多くの住民達も犠牲となりました。

台風直撃後から数日間全ての通信網が遮断され、現地の状況が全く分からないため、政府の対応が遅れ、現地の治安状況は悪化しており、物資を求めて略奪、強奪、混乱が続いていました。

被害推定：約 1 2 0 0 万人 約 2 6 0 万世帯 建物損傷約 1 1 9 万軒

死者（行方不明者含む）：5 7 5 5 人

負傷者：2 6 1 2 3 人

上記の死者・負傷者の 8 0 % がタクロバン市・パロ市・タナワン市

2 0 1 4 年 2 月現在の現地の状況

生活環境

多くの家屋が全壊、半壊し、修理のための物資、人的リソースが足りず、多くの住民が壊れた家屋で現在も被災生活中。

電気復旧作業はまだまだ進行中。

公共施設、主要道路の街灯は徐々に戻ってきているが、一般家庭にはまだ十分に電気は来ていない。住民の多くは 1 ヶ月に一度程度支給される食料に頼って生活している。



教育関連

学校施設の多くが全壊、半壊し、施設の多くが一時避難所として使用されている。ただし、学校再開にあたり避難者は減少中。1 月 1 7 日より多くの学校が再開し始めたが、限られた時間で授業が行われている。

U N I C E F の支援で臨時の小学校施設が提供され、多くの生徒がプレハブテントのような場所で授業を受けている。多くの児童が行き場も無く、壊れた瓦礫の中で生活している。



保健医療

政府、プライベートの医療施設の多くが台風により甚大な被害を受け、現在、国連を含む国際機関の支援により政府系の多くの医療機関が臨時医療施設や一時的な建物の修復により機能している。

特に、優先順位が低い歯科医療サービスや顕微鏡等の機材が不足している。

結核関連の医療サービスは大きな課題となっている。

薬局は薬を求める人々で長蛇の列。特にビタミン剤や継続的ケアに必要な医薬品が不足。メンタルヘルス、栄養分野はこれからますますニーズが高まる分野であり、対応が必要とされている。

今後のニーズと JDM の支援活動の方向性

今後の JDM の対応として、草の根レベルで出来る活動の継続的实施を考えています。特に現地での歯科医療の不足と復旧の遅れに対し、我々は歯科医療の提供と歯磨きの習慣の指導を検討しています。その為に各ヘルスセンターの責任者の方々と会見し、日本からの歯科機材や治療器具、マンパワーなどの提供と共に現地で活動できるように受け入れ態勢を整えるよう要請いたしました。

今年度は日本より歯科医療機材を持ち込み、治療活動と歯ブラシ指導活動を進めて行く予定です。

18年間継続して行われている、フィリピン・カオハガン島の歯科ボランティア活動を活かし、レイテ島・タクロバン市でのボランティア活動を今年9月10日（水）～9月15日（月）に実施する予定です。

カオハガン同様に、この活動にも沢山の皆様のご参加を希望しております。

今後共、宜しくご支援の程お願い致します。

代表理事 沢田 宗久

